

(1) 「非認知能力」について

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」「向社会性」の5種類について質問しています。

① 自制心

自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

(例) イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】 中学校1年生に質問

- ・ 授業で必要なものを忘れた
- ・ 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした
- ・ 何からん暴なことを言った
- ・ つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- ・ 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- ・ 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- ・ きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- ・ イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした

(出典) Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013).

Domain-specific impulsivity in school-age children.
Developmental Science, 16, 879-893.

② 自己効力感

自分はそれが実行できるという期待や自信

(例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 すべての学年に質問

- ・ 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- ・ 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- ・ 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- ・ 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- ・ 学校でよい成績をとることができると思う
- ・ 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- ・ 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う

(出典) P. Pintrich, et al. (1991)

A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning
Questionnaire (MSLQ)

③ 勤勉性

やるべきことをきちんとやることができる力

(例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学校6年生に質問

- ・ うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ・ ものごとは楽しみながらがんばってやります
- ・ 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- ・ 授業中は自分がやっていることに集中します
- ・ 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度もかくにんをします
- ・ ルールや順番は守ります
- ・ だれかと約束をしたら、それを守ります
- ・ 自分の部屋やつくえのまわりはちらかっています
- ・ 何かを始めたら、ぜっ対終わらせなければいけません
- ・ 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- ・ 宿題を終わらせてから、遊びます
- ・ 気が散ってしまうことはあまりありません
- ・ やらないといけないことはきちんとやります

(出典) Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003).
A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood.
Personality and Individual Differences, 34(4), 645-664.

④ やりぬく力

自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって 成し遂げられる力

(例) 失敗を乗り越えられる など

【児童生徒質問紙の項目】 小学4年生に質問

- ・ 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- ・ 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります
- ・ 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- ・ 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- ・ 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- ・ 何事にもよくがんばるほうです
- ・ いったん目標を決めてから、そのあとべつの目標に変えることがよくあります
- ・ 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- ・ 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- ・ 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- ・ 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- ・ まじめにコツコツとやるタイプです

(出典) Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007).
Grit: Perseverance and passion for long-term goals.
Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤ 向社会性

外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

(例) 相手の気持ちを考える、親切にする など

【児童生徒質問紙の項目】小学5年生と中学校2年生に質問

- ・ わたしは、誰に対しても親切にしている。わたしは、その人の気持ちをよく考える
- ・ わたしは、他の子たちと本や遊び道具などを共有する
- ・ わたしは、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける
- ・ わたしは、年下の子たちに対して、やさしくしている
- ・ わたしは、自分から進んで親・先生・友達の手伝いをする

(出典) Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note.

Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.

Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version.

European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.

非認知能力の把握

- 児童生徒質問紙を用いて、非認知能力を以下の表のとおり把握
- 児童生徒は非認知能力についての同一の質問に継続して回答

	R1 2019	R2(中止) 2020	R3 2021	R4 2022	R5(予定) 2023
中2	自己効力感	○	やりぬく力	向社会性 自己効力感	○
中1	自制心	○	自己効力感 算数動機付け	自制心 自己効力感	○
小6	やり抜く力	自己効力感 算数動機付け (4項目)	自制心 算数動機付け (4項目)	勤勉性 自己効力感	○
小5	批判的思考力 (16項目) 算数動機付け (4項目)	○	勤勉性	向社会性 自己効力感	○
小4	自制心 数学的リテラシー (18項目)	勤勉性	自己効力感	やり抜く力 自己効力感	自制心 自己効力感

(2)「学習方略」について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。ふくしま学力調査では「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」の5つに分類しています。

① 柔軟的方略

自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動

(例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- ・ 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- ・ 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- ・ 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

② プランニング方略

計画的に学習に取り組む活動

(例) 勉強を始める前に計画を立てる など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- ・ 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- ・ 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- ・ 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③ 作業方略

ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動

(例) 大切なところを繰り返し書く など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- ・ 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- ・ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- ・ 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

④ 認知的方略

より自分の理解度を深めるような学習活動

(例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- ・ 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- ・ 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく
- ・ 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑤ 努力調整方略

「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

(例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など

【児童生徒質問紙の項目】

- ・ 学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- ・ 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- ・ 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単どころだけ勉強する
- ・ 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

(出典) 心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉, (2007)., 心理測定尺度集/堀洋道監修. サイエンス社

※ 今年度より質問項目を整理し、「人的リソース方略」に関する質問を除きました。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」について

学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

【児童生徒質問紙の項目】※学年により、質問項目が異なります

あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- ・ 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
- ・ 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分が分かったことや分からなかったことを理解したこと
- ・ 分からないことなどを質問しやすい雰囲気で行われたこと
- ・ 教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと
- ・ グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- ・ 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりともてるようになったこと
- ・ 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
- ・ 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
- ・ 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
- ・ 授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと

※ 「主体的・対話的で深い学び」についての質問は、同一の学年集団に対して、同一の教科について継続して質問することで、変容を確認できるようにしています。具体的には、今年度の小学4年生、小学6年生、中学2年生については、経年で国語について質問し、今年度の小学5年生、中学1年生については、経年で算数・数学について質問しています。

(4) 帳票40を活用した分析について

帳票40は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票40を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問紙調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票40には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて「非認知能力」、「学習方略」、「主体的・対話的で深い学び」の児童生徒質問紙の回答状況が示されています。児童生徒質問紙の回答状況はふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面ではありますが、学力の伸びの状況が思わしくない児童生徒については、児童生徒質問紙の数値が低い項目について授業や学級で改善を働きかけることにより、学力を伸ばすことができる可能性があります。

40 学校用(令和4年度 中2)

令和4年度ふくしま学力調査
学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別
<R3⇒R4の学力の伸び・質問紙調査項目の変化を算出>

算数・数学の学力のレベルが令和3年度調査から6あるいは8上がっている。

当該生徒Aについては、学習方略のうち、プランニング方略、次いで作業方略と努力調整方略の数値が特に上がっている。当該生徒Bについては、学習方略のうち、作業方略、次いで柔軟的方略の数値が特に上がっている。質問紙調査の回答状況を参考に児童生徒のよい面を認め、自信を持たせたり、意欲を高めたりすることで、さらに学力を伸ばすことにつなげていく。

	算数・数学		R3→R4(変化量)											
	R4レベル	R3レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力				
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)				
	昨年年度からの学力の伸び													
当該生徒A	11-C	10-A	0.2	0.8	0.5	0.5	-	0.0	0.0	0.5	-	-		
	6-C	6-C	-0.2	0.0	-0.5	0.5	-	-0.8	0.0	0.1	-	-		
当該生徒B	6-B	4-B	3.8	0.5	1.5	1.0	-	0.8	1.0	0.8	-	-		
	10-B	10-C	0.1	-0.5	0.0	0.3	-	0.3	0.0	0.8	-	-		
当該生徒C	7-C	4-B	0.9	1.0	0.5	1.3	-	-0.3	0.3	0.1	-	-		
	6-B	6-B	-0.5	-0.8	-0.8	-0.5	-	0.5	-0.5	0.6	-	-		
当該生徒D	8-B	8-C	-0.2	0.0	0.0	0.5	-	-0.3	0.3	0.6	-	-		
	5-C	7-A	-1.1	-0.5	-0.5	-0.8	-	-1.3	-1.0	0.5	-	-		
	5-C	4-A	-0.1	-0.8	-0.5	0.0	-	-0.5	-0.8	0.0	-	-		
	5-C	6-A	-1.4	-0.3	-1.5	-0.3	-	-1.3	-1.0	-2.3	-	-		

算数・数学の学力のレベルが令和3年度調査から8あるいは5下がっている。

当該生徒Cについては、学習方略のうち、認知的方略、努力調整方略の数値が特に下がっている。当該生徒Dについては、学習方略のうち、プランニング方略の数値、非認知能力のうち、自己効力感の数値が特に下がっている。学習を進めるうえで課題となっている可能性があるため、質問紙調査の回答状況を参考に改善を働きかける。